

2026 年度

SGT 活動レポート

中 2 ステンドグラス講座 A 班 第 2 回

5 月 13 日(水)、中学 2 年生によるステンドグラス講座の 2 回目が 4 階技術家庭科室で行われました。今回は、各デザインの形に合わせ切り出したガラスのピースをルーターで削り、輪郭を整えていきます。フローラル、グリーンリーフ、マッシュルーム、クリスタル、クリスマスツリーの 5 つのデザインがありますが、その中から生徒たちが選んだ作品のガラス・ピースを丁寧に削ります。色ガラスをオイルカッターと鰐口を使い、切り分けたものを線に沿って形を整えていきます。ガラスは真っ直ぐ割れますが、曲線を描いて割れることはありません。フローラル、マッシュルーム、グリーンリーフ、クリスマスツリーなど曲線を含むピースが多い作品は、どうしても削るのに時間がかかります。色ガラスを整形するルーターは、アメリカ製でこれもステンドグラス・アーティストが使っているものと全く同じものを使います。生徒たちは、色ガラスのみならず道具も本物を使い、作品を制作します。もし分からないことがあれば、かわもと先生及び 2 人のインストラクターからご指導いただいているためすぐに質問することができます。

色ガラスと光がもたらす芸術、それがステンドグラスです。ステンドグラスは、ヨーロッパで生まれカトリック教会のバラ窓に代表される装飾として発展しました。ノートルダム大聖堂やケルン大聖堂にみられるステンドグラスは、森のような薄暗い室内に神によって照らされる光を届けてくれます。カトリック教会では、さまざまな聖人たちの物語がステンドグラスによって表現されたため、さまざまな色合いのガラスが作られてきました。かつて作られた色ガラスの中には、現在はその製法が分からなくなっている幻のガラスもあります。しかし日本では、江戸時代から明治時代の初めに至るまで幕府や明治政府による徹底した切支丹弾圧により教会建築は発展せず、色ガラスの製法も発達しませんでした。

こうしたことから日本のステンドグラス・アーティストが作るステンドグラス作品は、舶来品である本物の色ガラスを使わざるを得ないのです。一方で地震大国である日本では、関東大震災以降、地震に耐えうるような建築物を造ることが優先され、一部の富裕層の住宅建築を除き、芸術性を優先するステンドグラスはどうしても敬遠されてしまいました。建築技術の進歩がステンドグラスを生かした建築へと結び付けてくれることを期待したいものです。

第 3 回は、5 月 20 日(水)に実施します。オーナメントを組み上げていきます。銅箔のコッパーテープを貼ったガラスのピースをハンダゴテを使い、ガラスのピースを接着していきます。



本日の作業について説明しています。



キャンドルボックスを作る生徒は箱に使うガラスを作ります。



ルーターの使い方を学びます。回転する軸で研磨します。



ガラスのピースを丁寧に削ることで圧着も上手いきます。



1 ピースずつ型紙に合わせて削る箇所に印を付けます。



1 ピースずつ丁寧に削っていきます。



講師の方にお手伝いいただきます。



銅箔テープの巻き方について学びます。



ボックスに銅箔テープを巻き付けます。ラスキンを使いテープを圧着します。講師の方にお手伝いいただきます。だんだん仕上がってきました。